

関西大学大学院外国語教育学会 第3回年次大会

CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)と 外国語教育

2009年3月14日(土) 10:30開始(10:00から受付開始)
於 関西大学 尚文館 502教室

- 10:30-10:45 開会行事
- 10:50-11:50 【ワークショップ】
「文法訳読式授業からの脱出！
4技能向上のためのマルチメディア教材作成と授業活用」
講師: 深田将揮 (関西中央高等学校 英語科教諭
関西大学英語教育連環センター 委嘱研究員)
- 12:00-12:30 【研究発表】自律学習におけるビデオ会議システムの有効性
中西 礼 (関西大学大学院外国語教育学研究科博士課程前期課程)
- 12:30-13:30 昼休憩
- 13:30-15:10 【研究発表】「慰め」行為における日独対照研究 心理的距離が発話に及ぼす影響
濱 由依 (関西大学大学院外国語教育学研究科博士課程前期課程)
- 【研究発表】中国人日本語学習者の依頼表現に関する研究
尹 郁子 (関西大学大学院外国語教育学研究科博士課程前期課程)
- 【研究発表】高校生を対象とするドイツ語初級学習者のための教材作成
藤川穰輔 (関西大学大学院外国語教育学研究科博士課程前期課程)
- 15:10-15:25 休憩
- 15:25-16:15 【基調講演】
「CEFRにおける『コミュニケーション能力』の考え方と
『欧州言語ポートフォリオ』」
講師: 杉谷真佐子(関西大学教授)
- 16:20-17:20 【パネルディスカッション】
「コミュニケーション能力の複合性」
フランス語 - 菊地 歌子 (関西大学教授)
ドイツ語 - 杉谷真佐子 (関西大学教授)
英語 - 八島 智子 (関西大学教授)
中国語 - 山崎直樹 (関西大学教授)
- 17:25-17:35 閉会行事
- 17:45-19:30 懇親会 レストラン チルコロ

基調講演 講師紹介

杉谷眞佐子 関西大学 外国語教育研究機構教授

主要研究領域はドイツ語教育学、危機的事例法に基づく日独間コミュニケーション論、ドイツ・EUの言語教育政策、複言語主義、各国共通の言語能力評価のための基本構想と基準の策定、教授方法の開発など共存と競争力育成のための斬新な政策の実際をドイツ、オーストリア、ポーランドを中心に調査・研究している。

主要著書・論文

Sugitani, M. (2002). Als kritisch erlebte Interaktionssituation in der japanisch-deutschen Begegnung - Eine Erkundung des Alltagswissens am Arbeitsplatz. In T. Hauschild & B. J. Warneken (Eds.), *Inspecting Germany* (pp. 89-105). Münster: LIT Verlag.

杉谷眞佐子. (2004). 「ドイツ連邦共和国」. 大谷泰照他編, 『世界の外国語教育政策 日本の外国語教育の再構築へ向けて』. 東京: 東信堂.

杉谷眞佐子. (2004). 「ドイツ」. 国立教育政策研究所編, 『外国語のカリキュラムの改善に関する研究諸外国の動向』. (http://www.nier.go.jp/kiso/kyouka/PDF/report_21.pdf).

杉谷眞佐子. (2008). 「『ヨーロッパ言語共通参照枠』とProfile deutsch『ドイツ語プロフィール』の表現力養成の観点-日本語教育への示唆-」. 『日本語教育振興協会ニュース』, 103, 47-71.

菊地歌子 関西大学 外国語教育研究機構教授

ストラスブール大学において博士(音声学)を取得。専門は音声学。主要な研究テーマはフランス語教育教授法、発音指導法。フランス語運用能力を重視した教育方針を実践。さらに通訳法を上級フランス語教育へ応用し、フランス語で発せられた情報を正確に把握する訓練方法を模索している。

八島智子 関西大学 外国語教育研究機構教授

神戸市外国語大学大学院(英語学)修了後、岡山大学大学院において博士(文化科学)を取得。専門は応用言語学と異文化間コミュニケーション論。研究については、学際的な研究アプローチから、第二言語・外国語の習得と使用に関わる社会文化的な側面、情意的側面の分析を試みている。

山崎直樹 関西大学 外国語教育研究機構教授

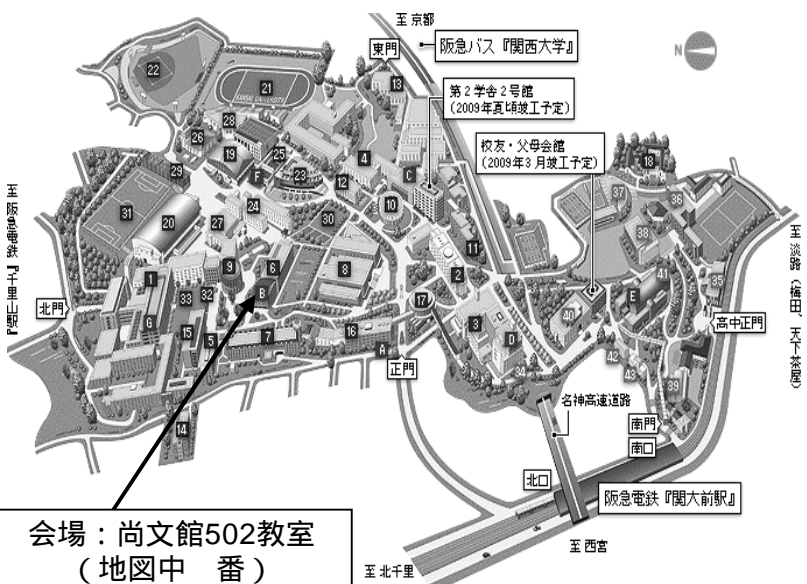
専門は中国語学・中国語教育。近数年来取り組んでいるのは、ICTの言語教育への応用、コミュニケーション型な教室活動の考案など。目下の関心事は、(1)言語構造に関する知識をどう学習者に伝えるか～学習者用辞書はどうあるべきか、(2)学生の言語的背景が多様化しつつある現在、大学での言語教育はどうあるべきか、など。

CEFRとは、“Common European Framework of Reference for Languages”ヨーロッパ言語共通参照枠組みの略称で「CEF」とも言われる。欧州評議会(Council of Europe)が2001年に、ヨーロッパ域内の言語教育シラバス、カリキュラム、教科書、試験の作成時、及び学習者の能力評価時に共通の基盤を与えるために制定したもの。言語達成度の具体的な基準を制定することにより、様々な資格の国際比較や相互認定を容易にし、ヨーロッパ内での人の動きを容易にすること、効果的なコミュニケーションと文化間の相互理解を促進することなどを意義としており、その基底には「行動中心主義」「複言語主義」がある。

吉島茂・大橋理枝他(訳・編). (2004). 『外国語教育II - 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』. 東京: 朝日出版社.

CEFRとは?

CEFRに関する書籍



開催日: 2009年3月14日(土)

会場: 〒564-8680

大阪府吹田市山手町3-3-35

関西大学千里山キャンパス

尚文館 502教室

アクセス: 阪急千里線「関大駅前」下車 徒歩10分

参加費: 学会員 無料

非会員(一般) 2000円

非会員(学生) 1000円

* 懇親会参加希望の方は受付で別途2000円をお支払いください。

主催: 関西大学大学院外国語教育学会

後援: 関西大学大学院

外国語教育学研究科院生協議会

問合せ: 研究大会委員 kenkyu@kufler-s.jp